



バグダッドLO日々業務報告(3月3日1830)



区 分	内 容
1 警戒態勢等	(1) サマーウに直接影響を及ぼす脅威情報 (2) イラク全域に係る脅威レベル サマーウ及びバスラは [REDACTED] バグダッド及びモスルは [REDACTED]、ラマディは [REDACTED]
2 特記事項	な し
3 本日の業務	情報収集及び連絡調整
4 明日の予定	情報収集及び連絡調整
5 その他(備考)	

バグダッド日誌(3月2日)

○ "Baghdad Mosquito"

MNC-Iでは、毎日、アラビア語の新聞、TV、ラジオ、Webサイト等モニターし主要な記事を英語に翻訳し、配信している。題して"Baghdad Mosquito"。この編集作業、現地の人を雇い、バグダッド市内のとある1軒家で、ひっそりと行っている。さらにここでは、定期的に、シーア、スンニ、クルド等様々な層の人々何人かを一同に集め「いま、街で何が噂されているか」を収集している。男女もほぼ均等に参加していた。識字率が50%といわれるイラクでは、この「噂」が意外に重要な意味を持っており、B. M.によれば、フセイン政権では、情報局が様々な噂の流布に尽力していたとのことである。実はこの会合、毎回C2部からも参加しており、昨日は風間1尉が参加した。(私は既に参加済み)。

会議場所へは、キャンプ内からヘリで5分、その後バスに乗り換えて15分ほどで到着する。事務所は塙で囲まれた閑静な住宅街にある。会議自体はとても和やかな雰囲気の中、参加者がそれぞれ収集してきた街の噂を報告していく。次に、いくつかの項目について、街の人がどのように考えているか、彼ら自身はどのように考えるかの意見交換をする。それも結構活発な議論になる。ある女性なんかは、どんな質問に対しても終始積極的に発言し、進行役が「そこまで！」ととても、止めようとしな。周りは圧倒されっ放しであった。こうして、白熱した意見交換は3時間余り行われ、終了後直ちに編集、翌日にはB. M.に載せて配信されるのである。ちなみに、私が参加したときは聖廟爆破事件の直後でもあり、それに関しての意見交換が多く行われていた。

さて、日頃のC2部の作業は、毎日同じ事務室で、配信されるてくる膨大なメールをひたすら読み、あわせて隔週で与えられる課題をまとめるという、言わば単純作業である。そのため、キャンプの外に出る本会合への参加はとても刺激的であった。また、この会合での議論がMNC-Iの関心事項にヒットすることが多く、情勢判断の資となっていることが実感できる。決して花形ではない情報部が充実感を味わうことのできる瞬間の1つである。